



中部電力

2022年度第 2 四半期 決算説明資料

2022年10月28日

I 2022年度第2四半期 決算概要	<スライド番号>
決算概要	 1
セグメント別決算概要	 4
発電電力量	 8
(参考) 期ずれ影響のイメージ (実績)	 9
2022年度 業績見通し	10
配当状況	12
(参考) 期ずれ影響のイメージ (見通し)	13
II 参考データ：決算・財務関連	<スライド番号>
連結収支比較表	14
連結財政状態の概要	15
2022年度 セグメント別業績見通し	16
財務関連指標等	17

I 2022年度第2四半期 決算概要

(注) 「年度」表記は4月から翌年3月までの期間を、「2Q」表記は4月から9月までの期間を指します。
表示単位未満の数値について、金額は切り捨て、販売電力量や発電電力量などの諸元は四捨五入で記載しております。

決算概要①

〈決算のポイント〉（連結）

- 売上高：1兆7,792億円
燃料費調整額の増加（+3,287億円）などから、前年同期に比べ 6,187億円の増収
- 経常損益：△230億円
期ずれ差損の拡大（△1,370億円）やパワーグリッドにおける需給調整費用の増加などにより収支は大きく悪化一方で、JERAの燃料トレーディング事業利益の増加などもあり、前年同期に比べ 867億円の減益

- ・ 売上高は、2019/2Q以来、3年ぶりの増収
- ・ 経常損益は、2021/2Qに続き、2年連続の減益
- ・ 2017/2Q以来、5年ぶりの増収減益
- ・ 2013/2Q以来、9年ぶりの赤字

(億円,%)

	2022/2Q (A)	2021/2Q (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
売上高	17,792	11,604	6,187	53.3
営業損益	612	540	71	13.3
経常損益	△ 230 (1,590程度)	636 (1,090程度)	△ 867 (500程度)	— (45.9)
特別損益（※）	△ 100	—	△ 100	—
親会社株主に帰属する四半期純損益	△ 426	426	△ 852	—

() 内は期ずれ除き経常損益

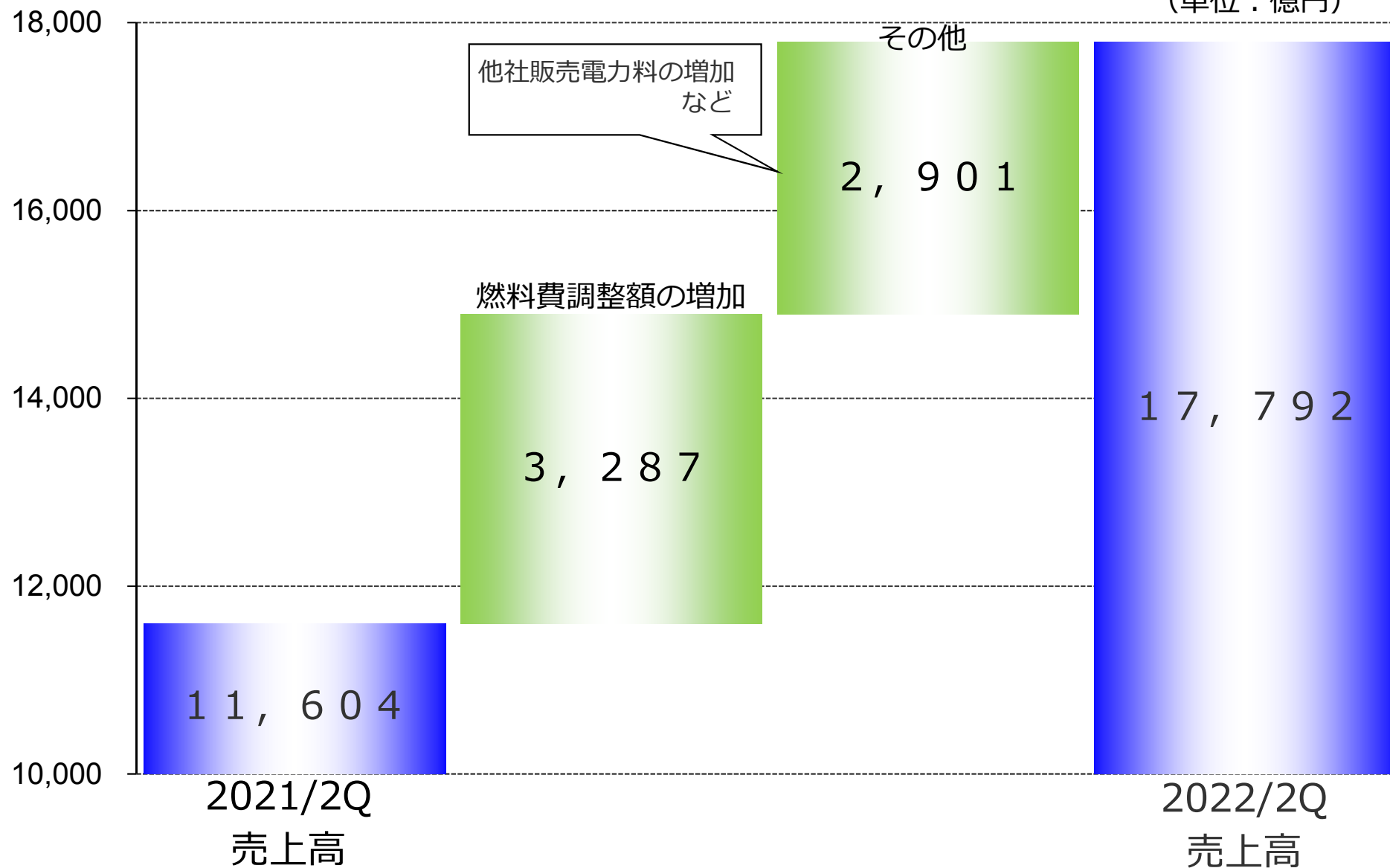
※ 2022/2Q：子会社等における減損損失

(注) 連結対象会社数 2022/2Q 連結子会社 60社(+6社) 持分法適用会社 66社(+12社) [() 内は前年同期差]

決算概要②

〈連結売上高の変動要因〉（6,187億円の増収）

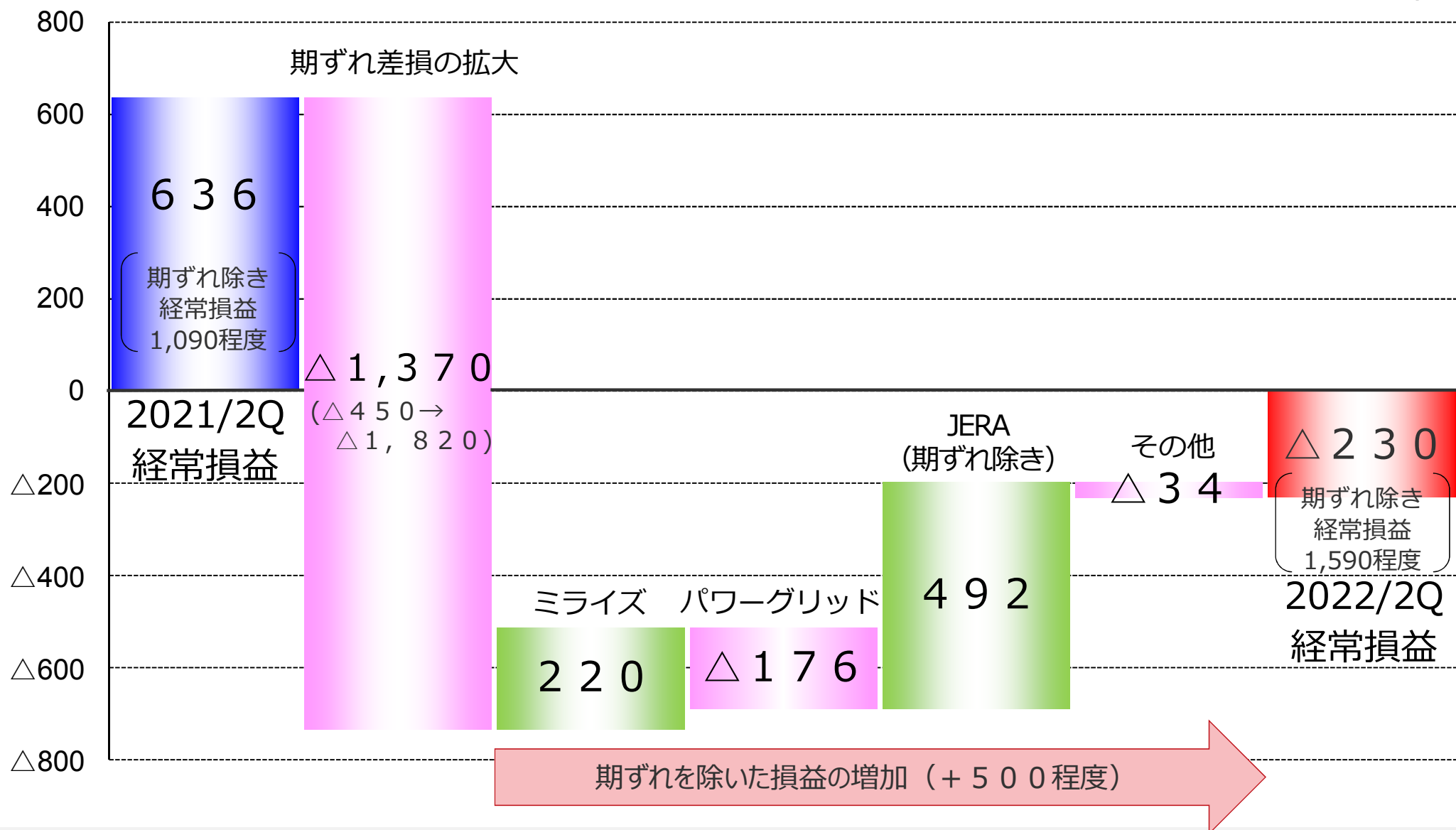
（単位：億円）



決算概要③

〈連結経常損益の変動要因〉（867億円の減益）

（単位：億円）



セグメント別決算概要①

【売上高】

(億円,%)

	2022/2Q (A)	2021/2Q (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
ミライズ	13,616	8,882	4,733	53.3
パワーグリッド	5,661	3,788	1,873	49.5
その他 (※1)	3,886	3,870	16	0.4
調整額	△ 5,372	△4,936	△ 436	8.8
合計	17,792	11,604	6,187	53.3

【経常損益】

(億円,%)

	2022/2Q (A)	2021/2Q (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
ミライズ	451	230	220	95.9
パワーグリッド	△ 140	35	△ 176	—
J E R A (※2)	△ 721	155	△ 877	—
その他 (※1)	479	1,007	△ 528	△ 52.4
調整額	△ 298	△792	493	△ 62.3
合計	△ 230	636	△ 867	—

(注) 各セグメントは内部取引消去前で記載しております。

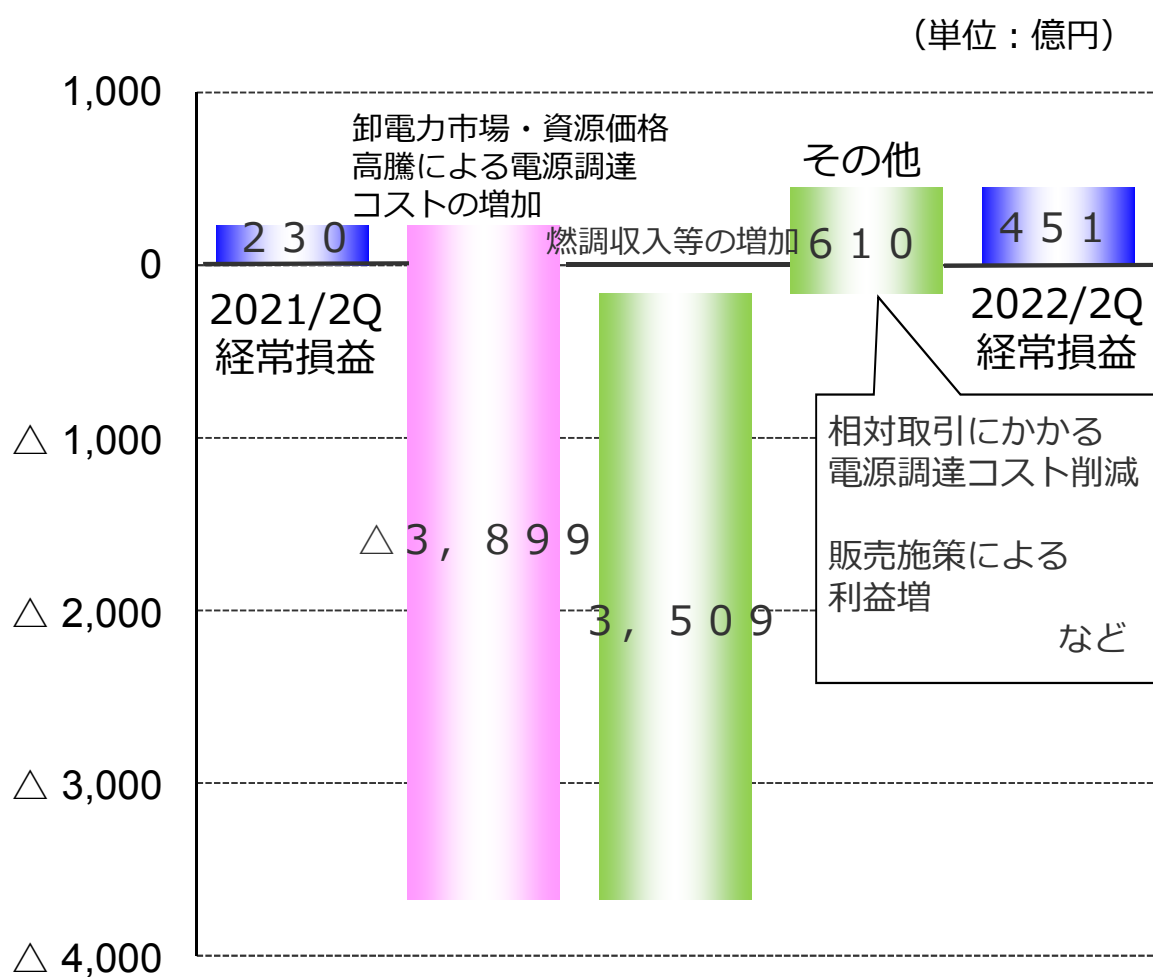
※1 その他の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、当社の再生可能エネルギーカンパニー、事業創造部門、グローバル事業部門、原子力部門、管理間接部門、その他の関係会社等を含んでおります。

※2 J E R Aは、持分法適用会社のため、売上高は計上されません。

セグメント別決算概要②：ミライズ

〈経常損益の変動要因〉

- 卸電力市場価格や資源価格の高騰による電源調達コストの増加はあったものの、燃料価格上昇による燃調収入等の増加や、相対取引にかかる電源調達コストの削減などにより、前年同期に比べ 220億円の増益



(販売電力量)

	'22/2Q (A)	'21/2Q (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
低圧	143	146	△ 3	△ 2.2
高圧・特別高圧	372	389	△ 17	△ 4.3
合計	516	536	△ 20	△ 3.8

競争影響△22程度、気温・景気等1程度

[参考]

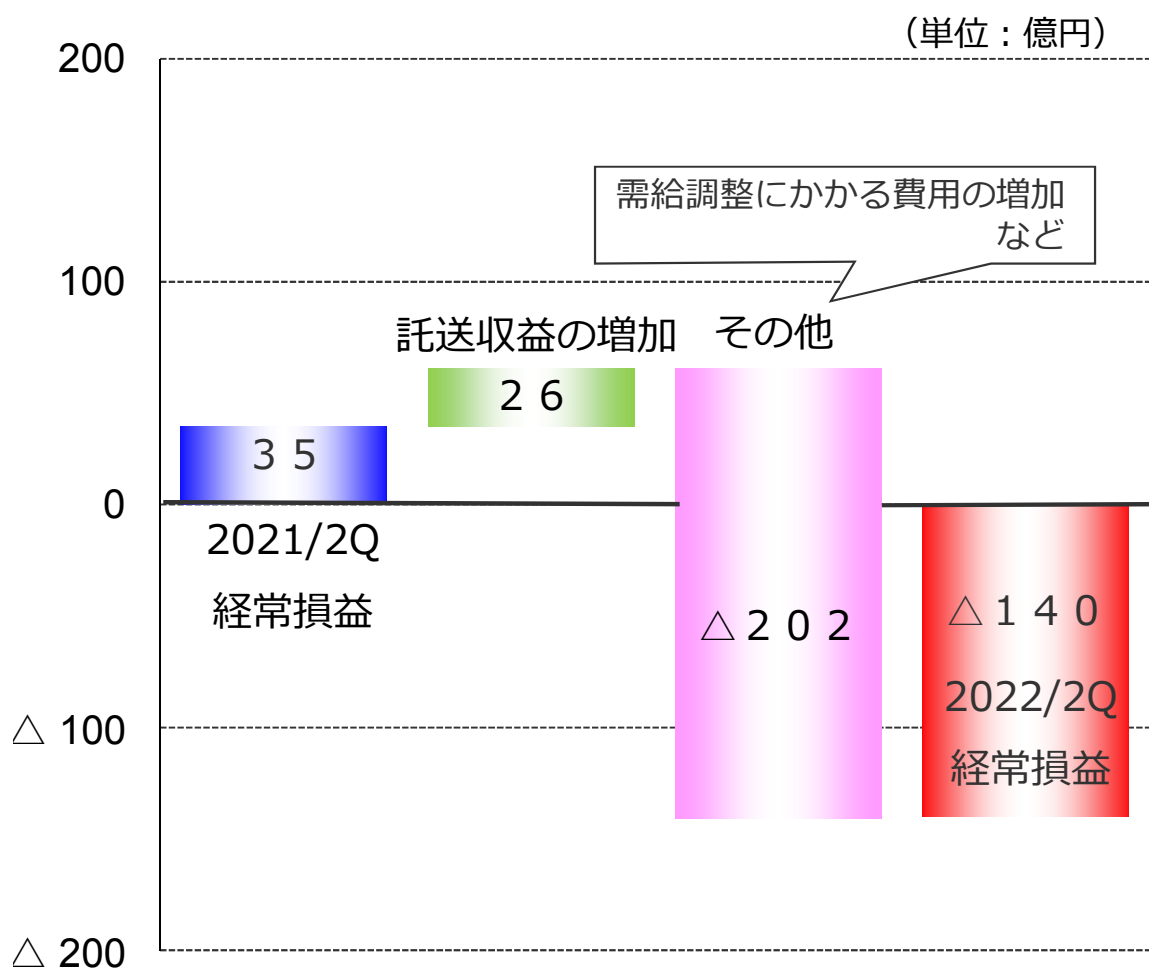
グループ合計の 販売電力量	568	579	△ 11	△ 1.9
他社販売電力量	60	53	6	12.2

- ※ グループ合計の販売電力量は中部電力ミライズおよびその子会社、関連会社の実績を記載しております。
- ※ 他社販売電力量は中部電力ミライズの子会社および関連会社への販売電力量を除いて記載しております。
- ※ 他社販売電力量は期末時点で把握している電力量を記載しております。

セグメント別決算概要③：パワーグリッド

〈経常損益の変動要因〉

- 託送収益の増加はあったものの、需給調整にかかる費用の増加などから、前年同期に比べ 176億円の減益



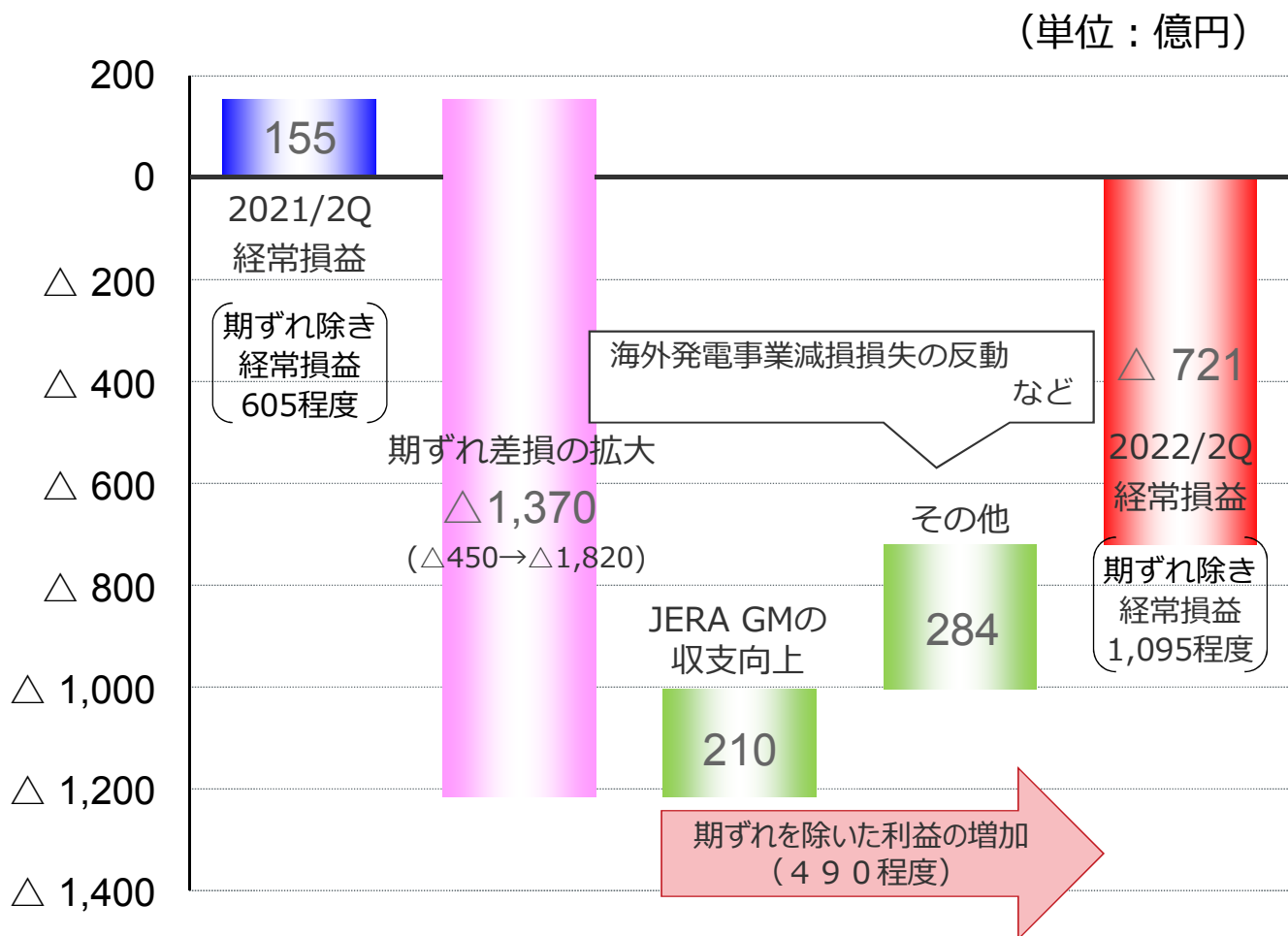
(エリア需要)

	'22/2Q (A)	'21/2Q (B)	(億kWh, %)	
			増減 (A-B)	(A-B)/B
低圧	183	180	3	1.5
高圧・特高	442	442	△ 1	△ 0.1
合計	624	622	2	0.4

セグメント別決算概要④：J E R A

〈経常損益の変動要因〉

- 燃料トレーディング事業を行うJERA GMの収支向上などはあったものの、期ずれ差損の拡大などにより、前年同期に比べ 877億円の減益
(参考) 期ずれを除いた経常損益：1,095億円程度（前年同期に比べ 490億円程度の増益）



(CIF価格・為替レート)

	'22/2Q (A)	'21/2Q (B)	増減 (A-B)
原油CIF価格(\$/b)	111.9	70.3	41.6
為替レート(円/\$)	134.0	109.8	24.2

※2022/2Qの原油CIF価格は速報値

(参考：JERA連結決算値)

	'22/2Q (A)	'21/2Q (B)	増減 (A-B)
連結純損益(億円)	△1,315 (2,316)	438 (1,348)	△1,754 (967)

() 内は期ずれ除き連結純損益

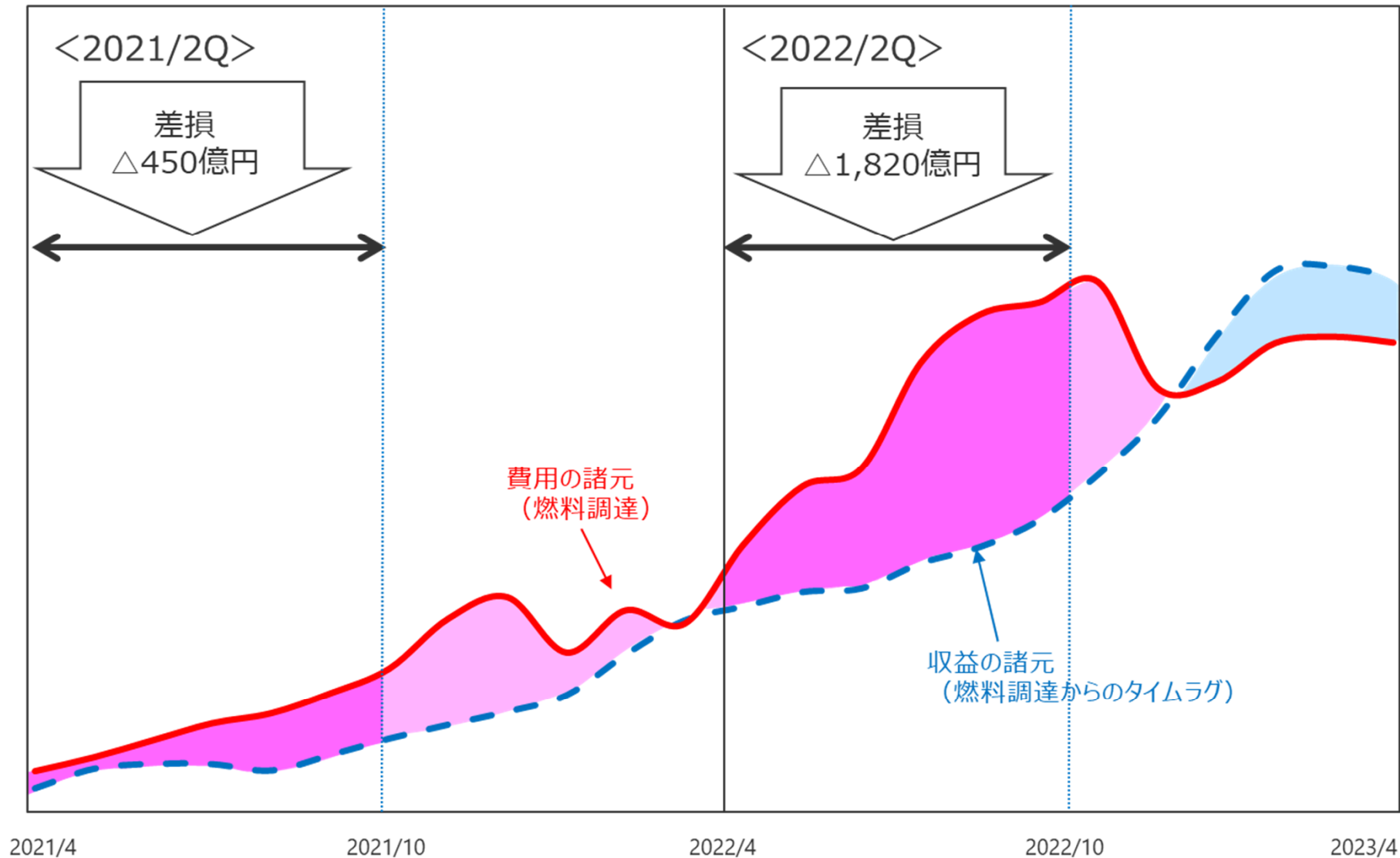
〈発電電力量〉（中部電力）

- **水力** 出水率が前年同期を下回ったことから、5 億kWh減少
- **新エネルギー** 前年同期並み

(億kWh,%)

	2022/2Q (A)	2021/2Q (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
水力 (出水率)	52 (99.3)	57 (114.7)	△ 5 (△ 15.4)	△ 8.0
原子力 (設備利用率)	— (—)	— (—)	— (—)	—
新エネルギー	2	2	0	13.7
合計	54	58	△ 4	△ 7.4

(参考) 期ずれ影響のイメージ (実績)



2022年度 業績見通しの概要①

〈業績見通し〉(連結)

2022年度業績見通しにつきましては、業績見通しの前提となる燃料価格や卸電力取引市場価格などが不透明な状況が続いておりますが、上期の実績が確定したことを考慮し、一定の前提を置いて業績を算定いたしましたので、公表いたします。

資源価格の大幅な上昇や円安の進行を下期に見込んでおり、ミライズの電源調達コストやパワーグリッドにおける需給調整費用の更なる増加、JERAにおいてはLNGのスポット調達への影響など、一段の収支悪化を想定しております。

(億円, %)

	2022年度予想 (A)	2021年度実績 (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
売上高	41,000	27,051	13,950程度	51.6
経常損益	△1,700 (△200程度)	△593 (670程度)	△1,110程度 (△870程度)	186.6 (—)
親会社株主に帰属する当期純損益	△1,300	△430	△870程度	202.2

() 内は期ずれ除き経常損益

- ・ 売上高は、2019年度以来、3年ぶりの増収
- ・ 経常損益は、2021年度に続き、2年連続の減益
- ・ 2018年度以来、4年ぶりの増収減益

2022年度 業績見通しの概要②

【主要諸元】

(中部電力ミライズの販売電力量)

競争影響△40程度

(億kWh,%)

	2022年度予想 (A)	2021年度実績 (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
販売電力量	1,052	1,089	△37	△3.4
グループ合計の販売電力量	1,156	1,178	△22	△1.9

※ グループ合計の販売電力量は、中部電力ミライズおよびその子会社、関連会社の値を記載しております。

(その他)

	2022年度予想	2021年度実績
原油CIF価格 (\$/b)	101程度	77
為替レート (円/\$)	139程度	112
原子力利用率 (%)	—	—

〈株主還元に関する考え方〉

- 電力の安全・安定的な供給のための設備投資を継続的に進めつつ、成長分野への投資を推進することで、持続的な成長を目指し、企業価値の向上に努めてまいります。
- 株主還元については、重要な使命と認識し、安定的な配当の継続を基本としながら、利益の成長を踏まえた還元に努め、連結配当性向 30%以上を目指してまいります。

〈中間配当〉

- 中間配当につきましては、本日開催の取締役会において 1株につき 25円 と決定いたしました。

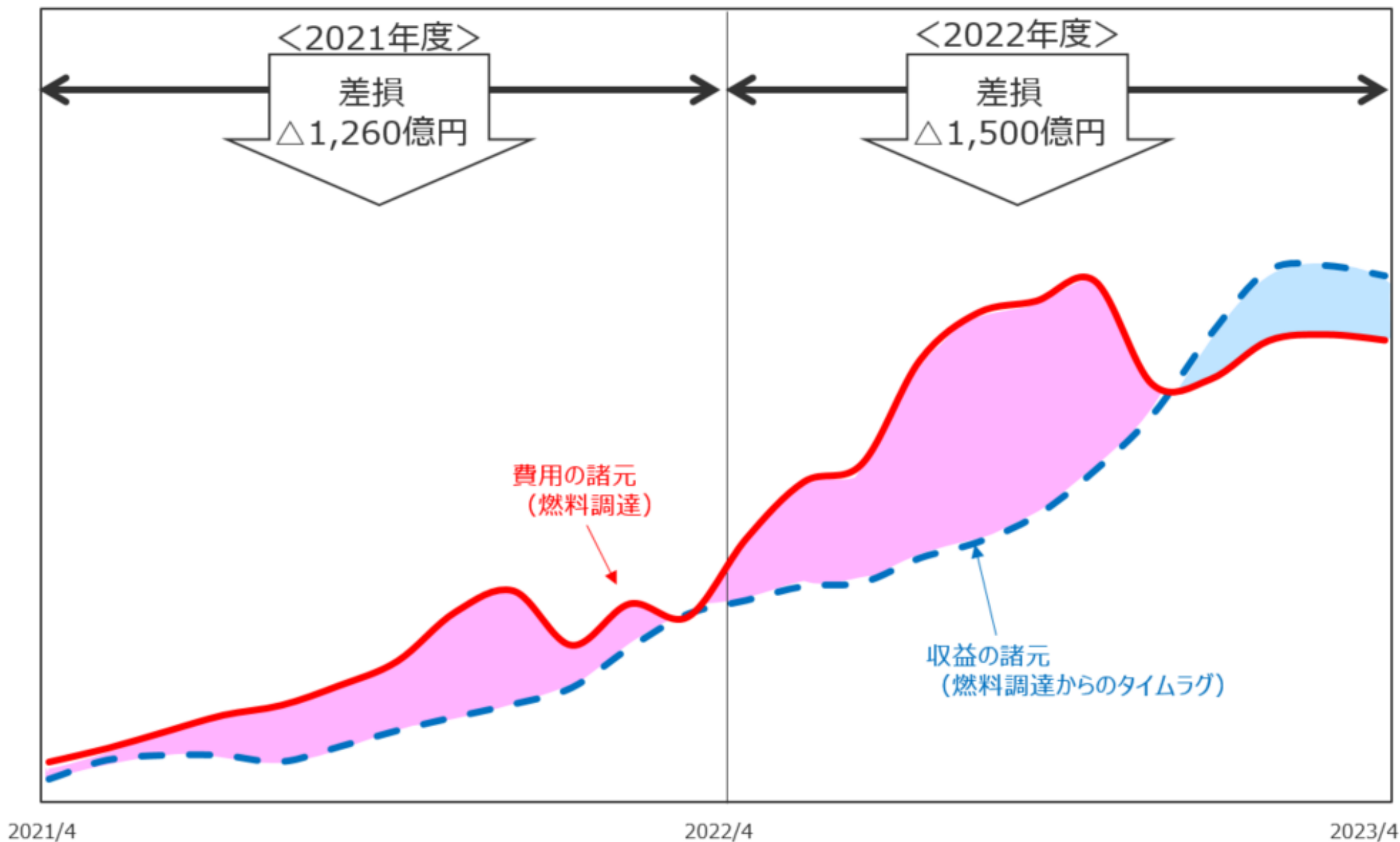
〈期末配当予想〉

- 期末配当予想につきましては、2022年度の期ずれ除き経常損益が赤字であることに加え、需給動向・燃料価格など事業環境の先行きに不透明感が強いことから、「25円」から「未定」に修正させて頂きました。

	2022年度	2021年度
1株当たり 中間配当金	25円	25円
1株当たり 期末配当金	(未定)	25円
合計	(未定)	50円
期ずれ補正後の 連結配当性向	(－)	45.6%

※ () 内は予想値

(参考) 期ずれ影響のイメージ (年度見通し)



Ⅱ 参考データ：決算・財務関連

連結収支比較表

(億円,%)

		2022/2Q (A)	2021/2Q (B)	増減	
				(A-B)	(A-B)/B
営業収益 (売上高)		17,792	11,604	6,187	53.3
持分法による投資利益		—	151	△ 151	—
その他収益		62	58	4	7.7
営業外収益		62	209	△ 146	△ 70.1
経常収益		17,854	11,813	6,040	51.1
営業費用		17,179	11,064	6,115	55.3
持分法による投資損失		730	—	730	—
その他費用		174	113	61	54.0
営業外費用		905	113	792	697.8
経常費用		18,085	11,177	6,907	61.8
(営業損益)		(612)	(540)	(71)	(13.3)
経常損益		△ 230	636	△ 867	—
渴求準備引当金取崩し		0	—	0	—
特別損益		△ 100	—	△ 100	—
法人税等		121	204	△ 83	△ 40.7
非支配株主に帰属する四半期純損益		△ 25	5	△ 31	—
親会社株主に帰属する四半期純損益		△ 426	426	△ 852	—

連結財政状態の概要

(億円)

	2022/9末 (A)	2022/3末 (B)	増減 (A-B)
資産	64,974	61,747	3,226
負債	42,500	40,514	1,985
純資産	22,473	21,232	1,241

<主な増減理由>

円安による包括利益増加
など

	2022/9末 (A)	2022/3末 (B)	増減 (A-B)
自己資本比率(%)	33.0	32.7	0.3
有利子負債残高	29,599	28,002	1,597

2022年度 セグメント別業績見通し

【経常損益】

(億円,%)

	2022年度予想 (A)	2021年度実績 (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
ミライズ	△350	△834	480程度	△58.1
パワーグリッド	△600	△148	△450程度	304.4
J E R A	△1,180 (320)	△3 (1,250)	△1,180程度 (△940程度)	大 (△74.5)
その他・調整額	430	393	40程度	9.4
合計	△1,700 (△200程度)	△593 (670程度)	△1,110程度 (△870程度)	186.6 (—)

() 内は期ずれ除き経常損益

(参考) JERA連結業績見通し

	2022年度予想 (A)	2021年度実績 (B)	増減	
			(A-B)	(A-B)/B
J E R A 連結純損益	△2,000 (1,000)	246 (2,770)	△2,250程度 (△1,770程度)	— (△63.9)

() 内は期ずれ除き連結純損益

財務関連指標等

(%)

	2022年度 見通し	2025年度 中期経営計画公表
ROI C	0.0程度	3.0以上
ROA	0.0程度	—
ROE	1.0程度	7.0程度

※ 期ずれ除きの数値

(億円)

	2022年度 見通し	2022/2Q	2022～25年度累計 中期経営計画公表
戦略的投資	1,000程度	200程度	4,500程度

本資料取扱上のご注意

本資料に記載されている将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる場合があります。